様式1

令和3年度　山梨県立都留学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	総合的な人間力を高め、次代の地域と日本を担うグローカル人材を育成する。 個性と能力を最大限に伸長させ、第一希望の進路実現を図る。

山梨県立都留高等学校校長　廣瀬　浩次

本年度の重点目標	
	より質の高い文武両道を求め、調和のとれた生徒の育成に努める。
	自他への思いやりや優しさを持つと同時に、困難を乗り越える強い意志と勇気を持った生徒の育成に努める。
	自ら学び、判断し、行動する姿勢を求め、次代の社会を担い、自立して生きていく力を培う。

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価		
	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自　己　評　価

本年度の重点目標				年度末評価（1月21日現在）		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	より質の高い文武両道を求め、調和のとれた生徒の育成に努める。	「主体的・対話的で深い学び」、質の高い授業を通して、生徒一人ひとりの力、可能性を引き出す学びの実現を目指す。 部活動や生徒会活動を活性化することで、県内はもとより関東や全国で活躍できるような「レベルの高い体育・文化活動」を目指す。また、適切な休養日の設定に努める。 単位制の特色を生かした幅広い選択科目の設定と少人数授業を行うことで、生徒一人ひとりの個性に合った、「深く広く学ぶ」ことのできる学習体制を構築する。	授業アンケートの実施 学校評価アンケートの分析と検証 学校評価アンケートの分析と検証	○教員は「一人ひとりを大切にした指導」「工夫した授業」を実践しているという自己評価が9割強、生徒の高評価は8割前後にとどまっている。昨年度に比べて差はかなり縮まっていて、生徒の高評価も若干上昇している。 ○進路情報の提供については、Teams配信など焦点を絞った内容の提供であったので、生徒は大きな効果を実感しているようである。また、課外・学習会については、昨年度の反省を踏まえ目的を明確にするよう心掛けてきたことで、微増した。 ○部活動は活発であると感じている生徒が多い一方、質の高い文武両道が実現できていると感じている生徒がやや増加したが、コロナ禍の影響もあり6割に留まっている。	B	○コロナ禍でのオンライン授業や授業時間の不足を補うための工夫を教員が行ってきた。授業改善など、気がついたときに少しづつ進めていく必要がある。 ○土曜学習会については、自己課題の発見とその解決に向けた勉強のしかたを年次進行で丁寧に指導し、成果を実感できる体験を積み重ねていくことが大切である。また、生徒一人ひとりの学力やニーズに沿った指導計画を立案する必要がある。 ○教員全体で、しっかりと学習に取り組ませた上で、部活動にも積極的に参加する意識を持たせる共通理解が一層求められる。
2	自他への思いやりや優しさを持つと同時に、困難を乗り越える強い意志と勇気を持った生徒の育成に努める。	学校外と連携した教育活動を通して、豊かな人間性と社会性・国際性を身に付けさせる。 家庭や外部機関との連絡を密にし、校内における生徒情報の共有と相談体制の充実を図る。	学校評価アンケートの分析と検証 学校評価アンケートの分析と検証	○コロナ禍の中で多くの行事が実施できなかった。不安を抱えている生徒も多い中、生命の尊さや生きることの価値を、様々な観点から気づきを与える機会をつくっていかなければならない。 ○学力・家庭環境等多様な生徒が在籍し、生徒の質的変容が認められる状況下において、教員の迅速かつ適切な情報共有が図られた。悩みを抱える生徒にとって相談しやすい環境になってきたと考えられる。	B	○自他への思いやりと優しさについて、積極的に評価する雰囲気の醸成に努める。 ○コロナ禍で先の見通せない中、生徒・教員間のコミュニケーションが親密に取られ、臨機応変な対応を可能とした。教員の、生徒一人一人を大切にする姿勢が根底にあり、生徒・教員間の信頼関係を得て学校の諸活動が行われている。一方、分散登校で生徒は家庭で過ごす時間が多くなっているが、規制で縛ることと同時に、ストレス対処についても考える必要がある。
3	自ら学び、判断し、行動する姿勢を求め、次代の社会を担い、自立して生きていく力を培う。	学校生活全体を通して挨拶の励行、時間・規則の遵守、環境美化の推進を行うことで、社会人としての基本的生活習慣の確立と規範意識の徹底を図る。 総合的な探究の時間「都留高探究プロジェクト」を中心に、地域社会における自己の役割を考えさせることで、自分らしい生き方を探すキャリア教育を推進する。 「丁寧な進学指導体制」の下、全国に通用する学力を養成し、適切な情報提供とアドバイスを行うことで、生徒一人ひとりの第一希望の進路実現を図る。	学校評価アンケートの分析と検証 学校評価アンケートの分析と「都留高探究プロジェクト」の成果の検証 学校評価アンケートの分析、学力の推移および進路実績の検証	○規範意識を持ちながら、自ら考えて行動できる生徒の育成については、学校生活の様々な場面で一定の成果が現れている。 ○総合的な学習の時間を活用した「都留高探究プロジェクト（つる探）」の取組については、通常の「体験を伴った研究」ができなかった為、インターネットや文献による「調べ学習」が主体になったので、「主体的で深い学び」という点で生徒の評価があまり高くなかった。一方、キャリア教育に係る諸行事は、講演会等で同窓生に依頼したため身近に感じられる存在であったことから、高評価を得た。 ○進路指導については、総合型選抜や学校推薦型選抜が増加しているが、各自の志望先の提出書類や手続き等が多様化したことで、総合型選抜への対応が遅れるという課題が浮き彫りになった。	A	○教員間の指導の統一をより図るとともに、生徒・保護者に対して指導の内容・意味について丁寧に説明を尽くして、十分な理解を得られるよう努める必要がある。 ○「つる探」の取組は，来年度より本格的にSDGsに関わるテーマ設定になっていき、地域からの要望に応えて地域活性化を目指すテーマ設定も求められている。必ずしも生徒の興味関心と重ならない分野の課題探究となることも考えられるが、少しでも生徒がやってよかったと思えるようなプロジェクトを目指していく。 ○改革された大学入試制度についての様々な情報について、収集と整理を的確に行い生徒に提供する情報と、指導の方法や内容について、常に教員間で検討・統一していく必要がある。

学校関係者評価

実施日　（令和4年2月17日）

評価	意見・要望等
3	○スクールポリシーについて、「グローバルな視点、ローカルな行動力」の育成を目指しているところがとても良いと感じます。この地域にある学校として、この地域に育ち将来を生きていくためにはとても大切な資質であると思います。 ○コロナ禍の中で先生方のご苦労は大変なものと承知はしていますが、教育活動を工夫して、伝統を大事にするとともに時代に合った教育をさらに進めていただきたい。 ○SDGsに関心を持たせることが今後の価値観として重要になって来ると思います。 ○地域貢献活動や、小中学校への学習支援など、地域に都留高校の取り組みや活動を発信していくことは、今後も続けていくことが望ましいと思う。また、地域で実施される祭りやフェスティバルなどにボランティアとして積極的に参加してほしい。
4	○中学校との情報共有のために養護教諭の情報交換の場があり、その後の指導においても情報交換がスムーズになされ有効に機能していると思います。特に生徒の心の問題は、早急に察知し、いかに情報を的確につかんで迅速に対応できるかが大切なことから、養護教諭間でのスムーズなやり取りができていることはとても良いと思います。 ○集団の中で、いじめは発生するものだと思います。いじめが発生したときにどう対応・対処するのかが重要である。今後も定期的なアンケートや生徒観察を続けてほしい。 ○学校行事の中止が多かったことは仕方ないことですが、withコロナの時代新しい方法を確立してください。 ○PTA活動はコロナの影響で活動自体が行えていない。今後コロナの状況が落ち着いたら、コロナ以前に戻すのではなく、新しい取り組みに向けた活動内容を考える必要がある。
4	○総合学習・探究学習の時間をうまく利用してキャリア教育を長期的に行っているのは、すばらしい取り組みだと思う。都留文大と連携しての国際交流については、コロナ禍が明けた暁には、ぜひ協力させて頂きたいと思う。今の段階でも、Zoomを通してや文通を介しての交流は可能だと思うがいかがでしょうか。 ○キャリアガイダンス・高大連携事業を行うことによって、社会を知るきっかけになり、自ら進むべき道を選ぶことに役立ち、よい刺激になると感じました。 ○「つる探」の発表において、地域の方々の協力や応援などが研究のプロセスにおいて必須になることが多いということが見て取れた。こうした活動は、探究や研究という学力的な力と言うだけなく、他者とのコミュニケーション能力や調整能力といった、幅広い力が身に付くきっかけになると思うのでぜひ続けて下さい。 ○多様化する生徒や保護者のニーズや入試制度の変更等に丁寧に対応していただいている。

留意点　（1）重点目標と評価項目については，各学校の現状と課題に基づき，実情に合わせて重点化し，設定する。
（2）学校関係者評価については，年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し，評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは，最終回の学校評価委員会等を開催し，学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。